

「2015年12月期第2四半期決算説明会」を開催し 日東精工の「等身大の今」「明日への展望」を 丁寧に説明しました

日東精工株式会社では2015年8月26日(水)に東京・日本橋にある日本投資環境研究所において、「2015年12月期第2四半期決算説明会」を開催。当社材木正己代表取締役社長が、報告書をもとに、その背景や今後の展望等をご説明させていただきました。今号はその内容を編集し、誌上公開いたします。



2015年12月期第2四半期(連結)決算

単位:百万円/％	14年12月期 第2四半期		15年12月期 第2四半期		業績予想比 (5月修正)		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減額	増減率
売上高	13,195	100.0	11,961	100.0	11,890	71	0.6
売上総利益	3,496	26.5	2,947	24.6			
販売管理費	1,980	15.0	1,995	16.7			
営業利益	1,515	11.5	952	8.0	850	102	12.0
経常利益	1,613	12.2	1,052	8.8	920	132	14.3
税金等調整前当期純利益	1,612	12.2	1,041	8.7			
当期純利益	914	6.9	518	4.3	430	88	20.5
一株当たり四半期純利益(円)	23.99		13.60		11.28	2.32	20.6

お客様ニーズに応じています。当社が長年培った技術力と知見で信頼を得て、競争に打ち勝っているわけです。

また「中期経営計画日東パワーアッププランFINAL」にうたっています。これまでの家電、電子部品分野等に加えて、自動車分野へ

細かい数字などはお手元の資料をあてご覧いただけるので(決算報告書は当社ホームページに掲載)、今日はその背景や今後の展望についてお話を申し上げます。当社は増収増益を目指しており、「お客様満足度120%」を経営理念に掲げています。ただ目先の利益だけに目をやるのではなく、常に時代や市場のニーズ、需要にしっかり応え、お客様の求められる以上のものを提供していきたいと考えています。

自動車分野で着実に成果をあげる

まずファスナー事業についてですが、業界そのものが正直厳しい状況が続きましたが、ここにきて底を打ち、回復基調にあります。当社では約7割をしめる基幹事業ですので、この状況は喜ばしいことです。

ファスナー(工業用ねじ)は価格競争があり常にコストダウンを求められますが、当社ではマーケットに毎月60件以上、一日3件以上の新製品を出しています。新しいもの、改良したものに置き換えてお

の注力も加速化、功を奏しています。一例を挙げれば、この上期では当社のゆるみ止めねじが国内メーカーの東南アジア向けバイクの部品に採用されました。従来はねじと接着剤の組み合わせだったものを、当社の「アブスロック」に置き換えることで、ねじの単価は上がるものの、大幅なトータルコストダウンにつながります。今回はインドネシア向けですが、世界標準仕様ですので、今後中国、タイ、マレーシアなど東南アジア各国へ広がっていくでしょう。

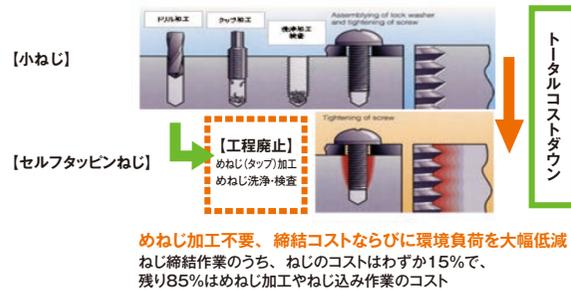
また、少し専門的な話ですが、ねじにはおねじ、めねじがあります。いわゆるボルトとナットですが、事前のめねじ加工を必要としないで、ダイレクトに締結できるのがセルフタップです。

このセルフタップは、とくに当社



の得意とする分野であり、実績とノウハウをもって、自動車分野でも電装品、内装品などに既に採用されています。今後は、これを基幹部品への採用拡大につなげていきたいと考えています。軸力安定という安全面の問題もクリアしており、すでに海外メーカーなどではこのねじが採用されていますので、グローバルな価格競争という観点から、国内メーカーがいずれ採用するのは必至（実際に採用に向けてのテストなどは進行中）、この分野での伸長が大いに期待できるものです。

セルフタッピングねじの販売拡大



【今後の展開】

- 一層の原価低減の有効対策として「セルフタッピング」を積極的に提案
- 「フリックス」(締付けトルクを安定させ精度の高い軸力が得られる)を、産機事業の高精度ねじ締めドライバとセットにして性能・コストでの優位性を訴求

スマートメーターでの伸長が期待大

産機事業部については期初、メーカーの国内回帰による設備関係の大型受注という見込みを立てておりましたが、これに関しては各社、既にある設備を修正変更・モデファイすることが多く、予測を修正せざるを得ませんでした。しかし海外、とくに中国からの引合いは依然多くあり、為替に注視しながらもしっかり対応していきたいと思っています。産機事業部の売上もメインは自動車分野になっており、たとえば当社もトヨタ自動車のTNGA（次世代車両技術戦略）に参画しています。内装部品の組立ラインの設備を、それまでの作業工程を4分の1、加工コストを2分の1に抑える生産設備を提案し、高い評価をいただいています。

また、当社は「ねじ締め機」ではトップシェアを誇ります。ねじ締め機をエアレス化（設備に空気圧

が不要）することで、お客様のCO₂削減、環境対策にも貢献しています。さらに2014年4月1日に施行されたエネルギーの使用の合理化等に関する法律の改正もあり、スマートメーター市場は好調で、この分野での伸長も期待できるものです。

トップシェアを誇る地盤調査機「ジオカルテ」の海外展開

制御システム事業では流量計や地盤調査機、マイクロバブル洗浄機などをつくっています。船舶用流量計は中国の大型船などの需要もあり堅調です。マイクロバブル洗浄機は水と空気だけで洗浄する環境にやさしい洗浄機。有機溶剤を使用しないので、環境負荷を減らすだけでなく、コスト削減や安全面でも貢献するもので、こちらも自動車業界等で採用実績を積み、今後も伸長が期待できます。

また地盤調査機「ジオカルテ」は、この分野で国内シェアナンバー1を誇りますが、国内の住宅需要の回復遅れの影響を受けています。そこで、これまでは戸建て向けのものでしたが、より深いところまで調査できる新製品を開発し、新たな市場への展開も図っていきます。また国内だけでなく、海外にも目を向けています。これはひとつのトピックスですが、今年11月にはニュージーランドで開催される学会で、同国での「ジオカルテ」による地盤調査の成果を発表・紹介する予定になっています。



当社の海外戦略としては、タイ、インドネシアで自動車向け設備を増強したことで、着実に収益を上げていますが、当社の売上は現況、国内が75%、海外は25%です。海外での伸びしろはまだあると考え、そのための施策を行っています。そして今後も右肩上がりのための種まき、将来を見据えた設備投資もしっかりしていきたいと考えています。

書籍『人生の「ねじ」を巻く77の教え』が高校の授業テキスト、そして海外版へと広がっています

増刷印税で児童書を購入・図書館へ寄贈

当社は「綾部市図書館」に児童書を約80冊寄贈しました。これは昨年5月に当社企画室編として出版した『人生の「ねじ」を巻く77の教え』の書籍印税をベースに、出版社ポプラ社様とともに「次の世代につなげる大切さ」を形にしたものです。7月14日(火)、図書館での贈呈式には綾部市教育委員会、足立雅和教育局をはじめポプラ社の販売責任者、瀬野徹さんにもお越しいただき、絵本の読み聞かせボランティアの方々も参加する和やかな式となりました。なお、『人生の「ねじ」を巻く77の教え』は海外で翻訳出版したいというオファーがあり、現在は台湾版が決定、発行準備がすすんでいます。



網野高校の授業テキストに

『人生の「ねじ」を巻く77の教え』

また、このニュースレター8月号でも紹介しましたが、当社のねじキャラクターの愛称を募集したところ、京丹後市の網野高校企画経営科2年生のマーケティング授業の一環として、クラス単位での応募打診がありました。そのことを当社ではうれしく光栄に思い、若い学生の方にもぜひ読んでいただきたいと、『人生の「ねじ」を巻く77の教え』を人数分お送りしたところ、改めて、この書籍を授業のテキストに使用させていただきましたと、画像付きで謝礼メールをいただきました。写真は授業の様子をおさめたもので、許可をいただき、ここに掲載いたします。

今後もこの書籍が媒介となって、当社のモノづくりへの真摯な取り組み、人材を大切に作る姿勢などが、よりグローバルに、また若い次の世代へと広がっていくことを期待するものです。

MF-Tokyo2015 日本ねじ工業協会ブースに協賛

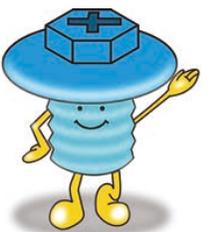
2015年7月15日(水)から18日(土)まで東京ビッグサイトに国際鍛圧機械 見本市「MF-Tokyo2015 プレス・板金・フォーミング展」が開催されました。日本ねじ工業協会様展示ブースでは、さまざまなねじを展示、クイズやスタンプラリーなどを実施しながら、ねじの大切さや多様性をアピール。またねじの適正締め付け体験教室、ねじ耐食試験セミナー、ボルト・ナットJISセミナーも開催しました。この日本ねじ工業協会様展示ブースに当社・日東精工も協力し、当社の極小ねじやゆるみ止めねじを展示しました。また会期中はマーケティング課員が案内人・解説員ヘルパーとしても参加、ねじ業界の底上げに協力しています。



メディアも注目!? 敢えて今、秋の大運動会を開催します

かつて高度成長期時代は社内大運動会といった行事が各社で当たり前に行われていましたが、最近あまり耳になくなりました。当社でも、自社体育館をもち、バスケやバレーボールなどスポーツは盛んですが、社員全員が参加する大運動会は久しく実施していませんでした。しかし、社員間の「絆」をより強くするために、また社員家族との交流を深めるために、大運動会を今秋復活させるプロジェクトが進行中です。

部署別対抗にするのか、紅白に分けるのか、具体的な競技内容などは現在調整中ですが、当社事業に関連させて、障害物競争ならぬ、ねじ締めねじ外し競争などが、ひょっとすると登場するかもしれません。10月17日(土)に開催予定で、メディアに情報をリリースしたところ、既に取材依頼もいただいています。



当社キャラクター、ねじっくんも運動会を応援!

「まれに」と「ときこ」

この差はどのくらいあるのでしょうか？

「曖昧言葉を見なおす大切さ」

NHK朝の連続ドラマ小説「まれ」が人気で、いよいよ大詰めを迎えますね。主人公の希(まれ)の名前は、めったにないもの、夢追い人になってほしいという願いをこめて父親がつけたようですが……「まれに」という言葉の響きから、皆さんはどれぐらいの頻度をイメージしますか？

あるいは「この薬を服用するときには副作用が起こることがあり」と書いてあったとすると、この「ときに」は、どれくらいだと思いますか？ 言葉のとらえ方はそれぞれで、試しに周りの人に聞いてみると、解釈の幅、差が大きいのに驚きます。「ときに」を3回に1回くらいと言う人から、100回に1回など様々です。

きに」の頻度は、20回に1回から1000回に1回までとなります。ここまで厳密には言いませんが、曖昧な言葉つかいは廃棄しましょう。ふだんなにげなく使っている「ほんの少し」、「誰もが」といった表現も量的な受け止め方には大きな差があるものです。

ビジネスの伝達や、受け止め方に違う解釈があつては大変なことになりません。言外の意味をくみ取り、相手が望む以上のものを意識して応えるといった感性を磨くことも大切ですが、曖昧語は誤解や勘違いのもとになります。

この際、作業の手順書など総点検して、解釈に差がでるような表現があれば、早速に改定をしてください。日常の連絡でも、「なるべく」とか、「午前中に」などといった言葉が、まだまだ横行しているようです。意識して曖昧にしておきたいときは別として、曖昧語を追放しましょう。

(経営コンサルタント・蒲田春樹)



ねじのある街・あやべの魅力

かの北大路魯山人が
もつとも美味と激賞した

清流 由良川の鮎

世界自然遺産に登録された知床や白神山など人智を超えた圧倒的な大自然がある一方で、里山のよように、人が暮らすことで命の循環が生まれ、美しさが維持されているところがあります。

日東精工本社のある京都府綾部市にも、ニッポンの原風景がいくつも残っていて、そのひとつが山家地区(ニューズレター6月号で紹介した、ピカソやマチスなどと肩を並べた有道佐二画伯の出身地)です。

この山家の今の時季の風物詩が「やな漁 鮎まつり」(9月1日〜9月30日)。綾部市内を流れる由良川は、天然鮎が遡上する百名川のひとつに数えられます。

かつて、由良川の鮎を、美食家で知られた北大路魯山人が、「もつともおいしい」と称賛しましたが、この「日本一」の鮎を堪能できるとおまつりです。

ちなみに「やな漁」とは産卵のため川を下る鮎の習性を利用して、



©一般社団法人綾部市観光協会

川の流れに「やな」と呼ばれる堰を仕掛けて鮎を捕える伝統漁法。この古式漁法を復活させ、「やな」は9月中の1か月間設置されていて、団体予約をすれば「やな」を使つての魚つかみなどができます。また由良川は鮎だけでなく、「サケの遡上する南限の大河」でもあり綾部市では、サケ、鮎の稚魚の放流などの施策を行っています。当社・日東精工の社員もこういった自然保護や環境美化に積極的に関わっています。